

最新版 財務体质改善マニュアル ～脱ドンブリ経営のすすめ～

- (1) 経営者はなぜ「ドンブリ経営」に陥るのか？
- (2) これがドンブリ経営の実態だった！
- (3) これだけ知れば十分！財務3表の基礎知識
- (4) お金のブロックパズルって何だ？
- (5) それぞれのブロックを順番に見ていきましょう
- (6) 説明が出来る賃金体系の基本
- (7) 経営者と社員の給料に対する意識のズレを直すには
- (8) 貸借対照表での注目ポイントはここだ！
- (9) 貸借対照表と損益計算書のチェックシート

参考資料1 現在の会社の立ち位置を知ると打つ手が見えてきます

参考資料2 SWOT 分析で自社の経営戦略を確かなものにしよう

参考資料3 銀行融資対策(銀行は企業のココを見ている！)

(1) 経営者はなぜ「ドンブリ経営」に陥るのか？

日本では、個人が事業を興す（起業）する時には、取り立てて簿記・会計の知識がなくてもOKなのですが、実は、これがその後の経営を苦しめる要因の一つでもあります。

お金の出入りや帳簿の作り方・その他の記録・保管書類などです。

これが原因で、大きなムダや、損失を出しています。

ちなみにドイツでは、起業する時には、最低限の会計知識がなければ起業出来ないと聞きました。

この（知識がないままに経営すること）を称して「ドンブリ経営」と、世間では言われています。

ではドンブリ経営に陥る経営者の頭の中を、図に描いてみましょう。

「ドンブリ」と聞くと、牛丼などの器を思い浮かべますが、そもそもその語源は、商人の前掛けに付いている、大きなポケットを指すとか。

その中に無造作に放り込まれたり、或いは支払ったり、そんな1日が終わった時に、その日の商いを始めたときに比べて、多かったのか、少なかったのか、だけを確認していただけ‥‥これがドンブリ経営の正体でした。

(2) ドンブリ経営の実例を図にしてみよう。

(図1)

たまたま、収入>支出だが・・・

収入	支出
<ul style="list-style-type: none"> ・売上 ・借入 ・定期積立金の解約 ・保険金の入金 ・設備の売却収入 ・税金の還付 ・・・ e t c 	<ul style="list-style-type: none"> ・社長の生活費（報酬） ・経費 ・返済 ・税金 ・定期積立 ・・・ e t c
余ったお金	

収入<支出になってしまふと・・・

収入	支出
<ul style="list-style-type: none"> ・売上 ・借入 ・定期積立金の解約 ・保険金の入金 ・設備の売却収入 ・税金の還付 ・・・ e t c 	<ul style="list-style-type: none"> ・社長の生活費（報酬） ・経費 ・返済 ・税金 ・定期積立 ・・・ e t c
足りないお金	

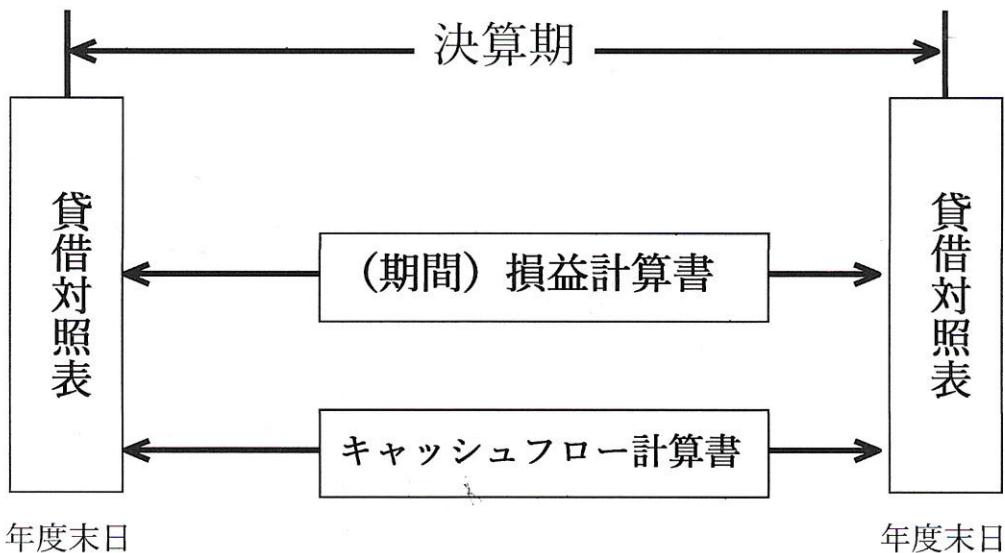
※一番の問題点は、お金の流れも構造も見えていないことです！

- ①上図の様にお金の出入りだけですべてを考えていた。（現金主義）
- ②公私の混同は、当たり前。
- ③目に見ない経費があるのに・・・。
- ④金が足りなくなったら銀行に借りに行く。
- ⑤決算まで黒字か赤字か分からぬ。
- ⑥税額を聞いてびっくり。

(3) 経営者にとって最低限必要な会計知識を学ぼう。

財務諸表3表の関係を図にしてみると以下の様になります。

(図2)



A 貸借対照表が教えてくれるもの

- ①決算日時点での財産目録と呼ばれています。（資産・負債・純資産等の額）
- ②過去の経営判断の集大成・・・経営の通知表です。
- ③会社が解散するまで数字は何年も継続します。

- ④企業存続の安全性を見ることもできます。
- ⑤固定資産の部をみるとその会社の業種がわかります。
- ⑥企業存続の改善ポイントを示します。（安全な会社作りはこの強化から・・・）

B 損益計算書が教えてくれるもの

- ①利益（損失）がどこから出たかが分かります。
- ②税務署から見たら税金計算書です。
- ③決算が終わったら期首には0にリセットされます。
- ④企業収益構造の改善ポイントを示します。

C C/F（キャッシュフロー計算書）が教えてくれるもの

前期と本期の現預金残の増減の理由（原因）を示すものです。

- ①営業活動
- ②投資活動
- ③財務活動・・・に分かれます。